



平成27年12月22日

国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

美しく豊かな三河湾の再生を目指して！！

～第14回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会～

1. 概要 :

11月24日(火)に、「第14回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会」を開催しました。当部会は、伊勢湾と三河湾とでは海域環境等への取り組みなどが異なることから、「伊勢湾再生海域検討会」の専門部会として、三河湾の環境改善対策の検討を目的に平成21年に設立しました。

今回の部会では、部会長である中田教授(名城大学大学院総合学術研究科)の議事進行のもと、事務局から提案した干潟・浅場の「試験施工の検討」、「造成による整備効果の検討」についての議論をしていただきました。各委員からいただいた意見を踏まえ、今後の試験施工箇所の調整を進めて行くこととしています。

2. 開催日時 : 平成27年11月24日(火) 14時00分～16時00分

3. 場 所 : 名豊ビル 本館7階 ホールA・B

4. 配布先 : 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、豊橋市政記者会、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

5. 問合せ先 :

国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所 企画調整課 田村(たむら)

Tel 0532-32-3252 Fax 0532-32-5049



【当日の様子】



【委員からの主な意見】

○試験施工の検討について

- ・施工後のモニタリングが大切であるため、一般の方が立ち入りにくい箇所が良い。
- ・候補地としている海域において、すでに生育している生物(アマモ)への配慮が必要である。
- ・地形変化の可能性が少ない場所が良いのではないか。

○造成による整備効果の検討について

- ・これまでのダム砂を利用した実験でも、ダム砂はアサリの着底に非常に良い材料であるという評価を得ており、ダム堆積砂を造成材として活用した場合のダム機能の延命化や健全化といった効果についても造成による整備効果として考慮する必要がある。
- ・干潟の生態系サービスの経済価値化について、今後具体的にどのような方法で評価していくのか示してもらいたい。

○干潟・浅場造成地の検討について

- ・改良したシミュレーション結果によると、蒲郡地区、三谷地区といった場所が六条潟へのアサリの供給源となっている可能性があり、浅場・干潟の造成適地と言えると思う。
- ・深掘り跡地の埋め戻しにおいて、中詰材は浚渫土砂でもよいが、覆砂後の生物の生育を考えると、最表層の覆砂材は、シルト分を多く含む浚渫土砂ではなく、河川等から発生する材料を使用した方がよい。最表層をきちんとすることで、浅場造成等の効果や機能が担保される。
- ・流域全体で土砂の有効活用を考える必要がある。
- ・大塚地区の覆砂事業は、十分な水深帯までのかさ上げをした上で、良質な材料で覆砂をする手順が良い。

なお、議事次第と概要については、伊勢湾再生海域検討会 HP にて公開を予定しております。

URL: <http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/isewan/index.html>